

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成25年5月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成25年5月24日（木） 開会：午後2時30分 閉会：午後4時38分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

| | | | |
|-----|-------|----------|-------|
| 委員長 | 秋山皓一 | 委員長職務代理者 | 山口恵子 |
| 委員 | 小川新太郎 | 委員 | 高木久美子 |
| 教育長 | 関川義雄 | | |

出席職員

| | | | |
|---------------|----------|-----------|------|
| 教育長 | 関川義雄（再掲） | | |
| 教育総務部長 | 深山芳文 | 生涯学習部長 | 諏訪峰雄 |
| 教育総務課長 | 伊藤和信 | 学校施設課長 | 藤崎宏行 |
| 学務課長 | 柳鶴暁 | 教育指導課長 | 山下隆文 |
| 学校給食センター所長 | 藤崎吉宣 | 生涯学習課長 | 秋山雅和 |
| 生涯スポーツ課長 | 大矢知良 | 公民館長 | 木川義夫 |
| 図書館長 | 大木孝男 | 生涯学習課課長補佐 | 木内悦夫 |
| 教育総務課課長補佐(書記) | 宮崎由紀男 | | |

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業

○4月30日 第10回下総地区小中連携推進委員会について

下総中で開催。教職員人事異動等で推進委員会のメンバーが若干変更となった。前下総中校長で、推進委員会委員長であった齊藤利明氏は、引き続き「顧問」という役職で推進委員会に残って頂くことになった。新メンバーで協議の結果、推進委員長には、高山勇 下総中校長が選出された。なお、副委員長は引き続き、菅澤榮 下総地区青少年健全育成協議会会長。

協議内容は、統合前最終年度となった本年度の計画及び各作業部会の内容確認が中心であった。本年度の先進校視察は市原市立小中一貫校「加茂学園」とすることや、統合に向けて児童の交流学習を計画的に行うこと。また、交流後のアンケート調査の実施など、視点を子どもに

向け、不安なく新しい学校に期待感を持って進めるよう配慮すること等を確認した。なお、高山推進委員長より、教職員の小中一貫教育に対する意識が低いため、是非早期に教職員への説明会を持ってほしいと提案され、これを了承した。また、小中一貫校としての通称名については、学校運営部会で協議され、絞られた6つの名称についてさらに教育委員会の協議会で協議し、最終的には教育委員会会議で決定されることを了解していただいた。

○5月7日 成田市校長会議について

市役所中会議室で開催。定例の会議であり、教育委員会から学校への伝達、指導事項について説明した。校長会では必ず不祥事防止のための指導を行っている。今回は県で実施した「体罰アンケート調査」の結果について学務課長が県の資料を基に説明し、今後も絶対にあってはならないと強く指導すると同時に、私からも子どもや職員を普段から良く見て、声をかけ、励まし、困っている者がいれば必ず何らかの対策を講じ、教育委員会にも出来る事があれば遠慮せず必ず声をかけてほしいと話した。

○5月9日 平成25年度成田市生涯大学院入学式・開講式について

第36期入学式を、開講式を兼ねて実施した。本年度入学生は95名、35期となる2年生は79名、3年生は58名で、合計232名の方が生涯大学院で学ぶこととなった。生涯大学院では教養講座として年間25～30回計画しており、全て必修科目で全員が受講することになっている。通常生涯大で午前10時から2時間程度の学習となる。また、専門講座は年間15回程度でそれぞれ科目に分かれて午後1時から2時間程度の学習としている。身近な学習が中心で楽しみながら学んでいけるのが魅力。受講生のほとんどが職をリタイアされた方など、高齢の方がほとんどだが、その学習意欲には驚かされる。

こういう学習機会を提供するという事は本当に大事な事だと実感した。

○5月14日 成田市教頭会議について

神宮寺小学校で開催。内容的には校長会議とほぼ同じものとなるが、免許更新制や学級編制事務等についても説明した。私からは、学校の管理運営上、関所が必要で、それは教頭が中心であり、文書管理、人事管理、施設管理等々管理上の不備がないかどうか今一度確認をするよう指示した。特に、転出入関係、スポーツ振興センター関係など、普段から注意して管理しなければならない公簿の取り扱いについて意識を高める必要があると話した。

○5月16日 下総小中一貫校教職員説明会について

下総地区全小中学校教職員を下総中に集め、下総地区で展開しようとしている小中一貫教育について説明を行った。これは、先の下総地区小中連携推進委員会の要請を受けて実施したものである。特に、小中一貫校と言っても、基本的には下総小学校と下総中学校の2校が存在し、これまでと同じように、それぞれ小学校、中学校の教育を行っていくことに変わりはない。ただし、この新しい学校の特色として、小学校と中学校が同じ敷地内に隣接していることから、小中の連携を強めた教育、いわゆる小中一貫教育の展開が可能であること。即ち一人の校長、複数の教頭もしくは副校長を配置し、小学校の5年生からは一部教科担任制、小学校6年担任

がそのまま中学校1年に相当する7年担任になるというようなことも、工夫次第で実現できること。何よりも9年間を同じ教育目標で、同じ教育方針で、同じ敷地の中で小中の壁をなくして指導できる、というような話をした。ただし、国・県、そして規則等の制約もあり、教職員配置は現状の小学校・中学校教職員の配置基準に従って配置することしかできないため、小中学校の教員がそれぞれの学校区分を超えて指導するには様々な困難がある。しかし、せっかくこの環境を整備できるのだから、より有効に、より積極的に小中の連携を深めていこう。ここには未来に広がる夢を実現する新しい学校をつくるのだという気概を持ってほしい、と説明をした。その後、質問を受け、これに答えることで教職員の理解を深めることができたのではないかと考えている。

○5月18日 平成25年度明治大学・成田社会人大学開講式について

今年度は、国際社会課程として「世界紛争と領土問題」、地域社会課程として「地域デザインとまちづくり」、緑地環境課程として「持続的社会的実現に向けて」という3課程を実施する。それぞれの課程では、国際社会課程が120名、地域社会課程が80名、緑地環境課程が37名の合計237名が受講することとなった。当日は明治大学からは副学長で社会連携担当の藤江昌嗣教授、農学博士の岩崎直人教授、社会連携部の白井利光部長、同じく浮塚利夫事務長、そしてNHK編成局コンテンツ開発センターチーフプロデューサーの武中千里氏がお見えになり、開講式とそれぞれの分野で、第1回目の講義を行った。受講者は年配者の割合が多いが、中には若い人や現職教員等もいて、幅広い層にまたがり、市民の学習意欲の高さが窺えた。講座はそれぞれ年10回行われ、8回以上出席した方には修了証書が授与される。また、修了回数等に応じて一定の要件を満たした方には、修了時に称号が授与されることになっている。

○5月20日～28日 校長目標申告について

30校の校長と面談。28日に残り9校の校長と面談の予定。各校の学校経営について、前年度の反省を踏まえ、今年度の目標達成のための具体的な方策等について申告を受けた。目標申告と業績評価を基に人事評価をすることになるが、学校数が多い市では、その時間の確保すら難しい状況にある。同じく学校においても規模の大きい学校では、一人ひとりの職員との面談時間もままならないのが実態である。各校の校長とじっくり話すことはそれぞれの学校経営について、また、校長の人となりについて知ることになり、意義深いものがあるが、面談時間もわずか10分程度で、中身が充実しているとは言い難い。今後、各校を訪れ、形式こだわらず様々な話を伺い、課題の把握や、教育委員会としての実のある支援の在り方を探っていきたい。同時に子どもの姿、職員の姿をしっかりと見て、有効な方策を展開できる学校づくりがなされるよう、努めていきたい。

○5月21日 2013成田POPラン大会実行委員会について

小泉市長を会長として、体育協会や陸上競技協会、スポーツ推進委員連絡協議会、青少年相談員連絡協議会、交通安全協会、コースとなる地区の区長会長や自治会長等で組織される委員会。昨年度の反省を基に、本年度の開催要項、大会予算、年間スケジュール、コース等につい

て協議した。その中で、小泉市長から、参加賞について、Tシャツよりランニング用キャップの方が選手に喜ばれる、という提案があり、予算の関係もあるが、検討することとなった。また、3キロの部では、スタート時の混乱を防ぐため、スタート位置を現状より100メートル後方に移し、スタート直後の直線部分をなるべく長くとり、転倒などの事故を出来る限り防ぎたいということや、総合案内所を設置すること等が提案され、了承を得た。大会規模は昨年度同様5,000人程度を見込んでいる。

○5月23日 ふれあいコンサートについて

市役所1階ロビーで、今回はヴィヴラフォンとピアノのアンサンブル。宅間善之さんと田中さとこさんのデュエットで、5曲演奏された。ジャズ風の軽快でリズムカルな演奏で、大変素晴らしい演奏。観客はおおよそ130～140名位であった。演奏を続けていくことで、市民にとっても、もっと音楽が身近に感じられていくことだろう。演奏時間もおおよそ30分程度で、誰でも気軽に楽しめるところが良いのではないかな。

その他

○4月27日 平成25年度成田市文化団体連絡協議会総会について

成田市中央公民館で開催。文団連は昭和53年に組織され、今年は35周年にあたる。現在80団体、会員は1,263名。今年度は新たに4団体の加盟が認められ、同時に4団体が退会となった。6月29日と30日には国際文化会館で文団連まつりが行われる予定。

○4月27日 平成25年度成田市体育協会定期総会について

同日、市役所で市体育協会の定期総会があり、こちらにも出席した。会議の冒頭、門馬会長の挨拶の中で、平成26年度より市から独立し、その後、法人格を取得して活動していきたいという話があった。また、議事の中でこれまで会長を務めてこられた甲斐剛良氏を顧問とする案が了解された。現在、体育協会には4専門部、52団体が加盟しており、大変大きな組織となっている。

○4月28日 平成25年度成田市青少年相談員連絡協議会総会について

第18期青少年相談員129名の委嘱状が市長より交付された。青少年相談員は千葉県知事と市町村長から委嘱され、任期は1期3年。年齢は委嘱時に25歳以上45歳以下の者、但し、継続して相談員となる者は45歳を超えても1期に限り可としている。今回、会長が 清宮勝 氏から 山岡 隆幸 氏に変わった。山岡氏は川上小学校区の選出。

○5月1日 国際子ども絵画交流展2013第1回実行委員会について

昨年度は世界16カ国からの作品、そして国内応募作品を合わせ成田山新勝寺第二講堂に展示すると同時に、作品集や入賞作品を掲載したカレンダーの作成、ホームページでの公開等、この展覧会を広く国内や世界にアピールしてきた。今年度も同様の方法で実施する。また、今年度の作品のテーマは実行委員会で協議し、「夢-D r e a m」とすることに決定。開催期間は10月26日から11月4日までこれまでと同様、成田山新勝寺 大本堂第二講堂で行うこ

ととした。

○5月8日 印旛地区教育研究会定期総会について

今年度も成田国際文化会館で印旛地区教育研究会の定期総会が開催された。地元教育委員会ということで、毎年招待され挨拶をしている。印旛地区も組織が大きくなり、各教科研究部も500名を超えるところがでており、もはやこれまでと同じような運営方法では、あまり大きな成果は望めないのではないかと。各市もそれぞれ単独で研究組織を作り活動しているのだから、果たしてこうした組織での運営が必要なのか疑問に思うこともある。

○5月11日 平成25年度成田ユネスコ協会定期総会について

協会顧問ということで出席した。橋内会長さんからは今年度もユネスコスクールの加盟促進を推進していくとのお話があった。また、ユネスコ婦人部は、年間を通じて国際交流事業を推進したり、積極的に大震災被災者の支援を行ったり、その献身的とも思える活動には、本当に頭の下がる思いである。なお、同日役員の改選もあったが、会長、副会長はじめ理事の変更もなく、昨年度同様の体制で運営することになった。

○5月11日 平成25年度文化財保護協会総会について

同日別会場で文化財保護協会の総会も行われた。出席されている方々の中には様々な団体の役員を兼ねていらっしゃる方も多く、前にもどこかでお会いしたという方もおられた。ユネスコにしてもこの文化財保護協会にしても、こうした活動を支えておられる方々の年齢層はだいぶ高くなっているという印象である。平日の活動が主であるので、やむを得ないが、どこの団体もこれからは後継者を育てることが大きな課題になるのではないかと感じた。

○5月11日 平成25年度成田市PTA連絡協議会定期総会について

総会では新役員さんが決まり、会長は引き続き 野村 豊氏だが、他の役員はだいぶ入れ替わりがあった。今年度のPTA連絡協議会のテーマは「学ぶPTA ～子どもとともに～」で、さすがに各校のPTAを代表して来られている方々ばかりで、大変意欲的だという印象を持った。なお、新設の公津の杜中学校も既にPTA組織が出来上がり会長には分離の際に中心になってお骨折り頂いた、横山新紀氏が就任された。総会の後、教育懇談会があったが、200名を超える出席があり、大盛況であった。

○5月12日 「2013少年の翼」結団式について

中央公民館で「少年の翼」の結団式があり、出席した。今年度は8月20日から28日までの9日間、ニュージーランド フォクストンにて海外研修を行ってくる。団員32名は全て小学生で、4班に分かれ、それぞれの班を統括するリーダー、研修スタッフ等、総勢52名が国内で宿泊研修2回を含む計5回の研修を経たのち、夏休み後半に出発することになる。青年会議所の若い力にたくましさを感じた。

○5月12日 平成25年度伊能歌舞伎保存会定期総会について

同日午後から大栄伊能地区にある宮本旅館で伊能歌舞伎保存会の定期総会があった。保存会のメンバーは高齢化が進み、伝統文化の継承にあたり、ここでも後継者作りが一番の課題にな

っている。その高い文化的価値を途絶えさせないためには、行政からの支援と地域の理解、子どもたちへの継承方法等、多くの方々の理解と協力が必要だと感じた。

○5月14日 小学校管理運営研修会について

これは、市内学校職員の自主組織で、参加者が将来管理職を目指し自主学習をするという目的で、校長会がリーダーシップをとり、後継者育成を行っている研修会である。第1回目ということで、私からの講義となった。学校の仕事に追われる中、職務終了後の学習会に積極的に参加している職員も多いので、なんとかしっかり育てていきたい。

○5月15日 平成25年度第1回教科用図書印旛採択地区協議会について

本年度は教科書採択担当が印西市ということで、秋山委員長と共に印西市文化ホールで開催された第1回目の会議に参加した。第1回目ということで、各委員の自己紹介、役員の選出、専門調査員の選任、教科用図書の選定方法等について協議した。委員は全部で25人、会長は担当市の教育長である大木弘印西市教育長に、職務代理者は次の担当市である四街道市教育長の高橋信彦氏に決定した。また、専門調査員は各市から提案された候補者の中から、8名が選出された。選定方法は、今年度は附則9条本ということで、対象となった図書の中から、除外したい図書があればその都度過半数で決定するという方法で選定していくことが確認された。全ての本を審議の対象とし、採決は除外すべきとした図書のみ行う、という方式である。

○5月16日 平成26年度全国高等学校総合体育大会成田市実行委員会「設立総会」並びに「第1回総会」について

インターハイは平成23年度からそれまでの単独県開催からブロック開催となり、複数の県が共同で会場を提供し、開催するようになった。来年度は南関東ブロック開催となっており、東京、千葉、山梨、神奈川の1都3県で共同開催となる。千葉県ではこの内、水泳、バスケットボール、ソフトテニス、バドミントン、柔道、空手道、アーチェリー、少林寺拳法の8種目が会場となる。成田市では、この8種目中、柔道と少林寺拳法の2種目の会場を引き受けることになった。大会会場はそれぞれ中台体育館となる。大会当日は、2種目で選手、役員、応援団併せて延べ16,000名程度を見込んでいる。第1回総会では成田市実行委員会の開催基本方針、実行委員会役員、専門委員会規定、本年度事業計画並びに予算が決められた。

○5月17日 平成25年度成田市戦没者追悼式について

毎回感じることだが、戦後68年目を迎え、遺族の高齢化が進み、戦争の悲惨さ、後世に伝えるべき事柄が形骸化して来ないか懸念される。学校教育で小学校、中学校でも当然指導しているが、最近の領土をめぐる問題が国際化し、我が国の政府と他国政府との見識の違いが顕著になるなど、これからの学校教育でこうした問題を子ども達にどう教えていくのか、大きな課題である。

○5月19日 東部五市体育大会について

東部五市体育大会開会式に参加すると同時に、陸上競技を視察、応援してきた。この大会では毎回、成田市が圧倒的に強く、今年度も陸上競技、卓球女子、柔道、バレーボール女子等、

25種目中11種目で優勝し、総合でも他市を圧倒した。次年度は成田市が会場となる。

○5月21日 任期付職員採用面接について

今回は保育士の産休、育休に伴う任期付職員の採用面接だった。面接したのは2名で、募集人員に満たない。同時に募集した保健師に至っては応募がなかったということである。なかなか厳しい状況になってきた。任期付職員の職種にもよるが、今の時期は一番人が集まりにくい時期でもある。もっと計画的に、先を見通した方策が必要ではないかと感じた。

○5月21日 第2回成田市制施行60周年記念事業実行委員会本部会会議について

第2回目の本部会会議ということで、60周年基本テーマの選定、ロゴマーク、協賛事業の取り扱い、記念事業の実施計画等について協議した。基本テーマは、6作品に絞られたものの中から、実行委員全員で投票し、「歴史と共に60年 さらに未来へ飛躍の成田」に決定した。ロゴマークは「うなりくん」を活用したロゴマークをとということで、「うなりくん」の制作者にデザインをお願いし、作った。

○5月22日 第41回第二部会小学校陸上競技大会について

好天のもと、中台陸上競技場で第二部会の小学校陸上競技大会が開催された。やや気温が高く、子どもたちの健康管理が懸念されたが、出場前、選手を随時日陰に入らせたり、長時間直射日光にさらされないよう、大会役員がよく配慮しているのが感じられた。ただ、子どもの応援に来て下さった方々の車が多く、駐車場に入りきれずに、近所のお店の駐車場に入れて注意を受けたり、競技場中央入口の喫煙場所で喫煙しているお母さん方も多数いて、これが小学生の大会だということを考えると、こういう光景は、子どもの教育的配慮上いかがなものかと感じた。

○5月23日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第87回理事会について

前任の佐藤教育長の後を受け、私が副理事長となった。事務局長からは、ここ数年、文化財センターが受注する仕事が減少し、公益財団法人としての経営は厳しい状況にあり、今後の活動が懸念されるとの発言があった。成田市と栄町から各一名ずつ職員が派遣されている。

《教育長報告に対する主な質疑等》

委員：下総小中一貫校教職員説明会についてであるが、職員の意識が低いという話であったが、どのような意識が低いということか。教育効果の向上を小中一貫教育の中で確立していくことが重要であり、その部分の職員の意識が低いと小中一貫教育を進めていくことが難しいと思う。どのような点について意識が低いのか。また、校長目標申告書について、最近、形式化していると思うが。目標申告書を作成する上で重要なのは、具体的な方策がきちっとしていることであり、それがない目標申告書は成果が期待できないと思う。各校から出された具体的な方策の出来具合はどのような状況か。最後に、第二部会小学校陸上競技大会において成田市の学校の成績はどうであったか

教えてほしい。

関川教育長：まず、一貫教育とは何か、どういうことをするのか、が具体的に職員に通じていない。一つには、今いる子どもたちを指導するのに精一杯で、新たに始まることについて、なかなか思考を巡らすことができない状態で、どのように展開していくことが一貫教育なのか分かっていないのが実態である。基本的な考え方であるとか、例えば職員の配置や学年の区分、区分毎の指導方法、小中の先生が入れ替わって授業を行うことや小学校の先生の良さ、中学校の先生の良さ、それぞれの良さを活かして学校経営をしていくことなどについて説明をした。来年スタートするのに、自分たちがどうしていけばいいのか見えていない、したがって気持ちも高ぶらない、こうした状況を高山校長は心配をされていた。統合小学校に積極的にいきたいと考えている小学校教員が何人位いるか聞いてもらったところ、2名しかいなかった。そうした状況であったので、全ての職員を一堂に集めて説明をした。

次に目標申告についてであるが、形式化しているのではとのご指摘だが、確かにそういう部分はあると思う。ただ、方策については、当初に比べればかなり具体化されてきており、何をどの程度まで今年は取り組んでいくかを数値化してくる学校が多くなった。また、昨年の取り組んだ結果を見せてくれる校長もいる。あまりに大雑把な申告をされる方については、具体的な方策について質問をし、その時点で確認をさせていただいている。

最後に競技大会での成田市の成績についてであるが、成田市の成績は非常に素晴らしく、優勝者だけをみても、100mの5年男女、6年女子、60mハードルの5年女子、80mハードルの6年男女、800mの6年女子、1,000mの5・6年男子、走り幅跳びの5年男女、6年男女が成田市で、走り幅跳びの5年男子では高岡小の子が優勝しており、高岡小としては最後の出場となる。走り高跳びでは、5・6年男女の優勝が成田市で、5年男子は小御門小、5年女子は大須賀小、6年男子は桜田小と小規模の学校の活躍が目立った。さらに、400mリレーの5・6年男女、ソフトボール投げの5年・6年男子が成田市の学校が優勝した。学校数が多いこともあり、圧倒的に成田市の学校の成績が良かった。

委員：小中一貫教育について、来年スタートするのに、どう取り組んでいくのか職員が解っていないのでは困る。やるべきこと、それによる成果を具体的に示すこと、成果をあげるにはどう取り組むのか、そうしたことを明確にしていく必要がある。職員の意識は重要で、出来れば小規模校から厳しい所に行きたくないのは本音だとは思いますが、教える喜び、教師としての喜びといったものは新しい学校にあるはずなので、意識を高めて来年度に向けていい準備を進めてほしいと思う。

関川教育長：これから統合に向けてどのような仕事をしていくのか、非常に細かく多くの項目について、誰がどんなことをするかまで決めてスタートしている。そういう意味では、やることが大分見えてきたと思っている。

委員：本日、公津の杜中と台湾の中学生交流会を参観した。英語の授業の中で、生徒同士の会話のやり取りがあり、準備不足もあったとは思うが、成田市の生徒は上手くコミュニケーションがとれていなかった。これまでの小学校からの取組みが活かされていない感じを受けた。

山下教育指導課長：正直なところ、同じような感想を持った。本当はもう少し能力はあると思うが、今回は急な話の中で、準備が十分されていなかった。学校側も計画をしていない中で、子どもたちも相当緊張をしていた様子であった。とはいえ、もう少し改善する余地はあると感じた。英語の検討委員会などで話をしていきたいと思う。

関川教育長：今日の会話の学習については、成田小で行われている参道学習（子ども達が通りがかりの外国人に話しかけて英会話を行うもの）でのやり取りと同程度の内容であった。レベルはそれ以下であった。突然であってももう少し話が出来ないと厳しい評価を受けても仕方がないと思った。自信がないせいかモジモジしているとか、単語のしり取りをやったときにも簡単な言葉が出て来ないとか、リンゴのappleが書けないとか、たまたまそういう生徒にあたったかもしれませんが、それにしても思っていたよりも厳しいと感じた。

3. 議 事

(1) 議 案

(成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 工事請負契約の締結について（成田市立吾妻小学校校舎増築工事（建築工事））

《審議結果》

可 決

議案第2号 成田市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承認

議案第3号 工事請負契約の締結について(成田市立本城小学校学校給食共同調理場増築工事
(建築工事))

《審議結果》

可決

議案第4号 財産の取得について(成田市立本城小学校学校給食共同調理場に係る厨房機器)

《審議結果》

可決

議案第5号 工事請負契約の締結について(成田国際文化会館改修工事(電気設備工事))

《審議結果》

可決

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 国際こども絵画交流展2013について

【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】

(要旨)

本事業については、世界各地のこどもたちと市内のこどもたちの絵画作品を通して、お互いの生活や文化の理解を深めることを目的に開催してきた。また、平成22年度は実施内容の見

直しを行い、平成23年度より新たな体制でスタートさせていただいた。

今年度も、今月の1日に実行委員会を開催し、概ね、昨年度と同様の内容で実施することが決まったので、報告させていただくものである。

まず、主催は国際こども絵画交流展実行委員会が行い、市長を委員長、教育長を副委員長として、その他に国際交流や国際理解につながる効果、あるいは、教育的な側面からご意見を頂ける方々にお願いをしている。

応募にあたっての「テーマ」については、同じテーマに基づいて描かれた作品を鑑賞することにより、様々な国や生徒たちの考え方や、生活・文化の相違点や類似点などに気付く機会になることをねらいとしており、今年度は「夢(ドリーム) - D r e a m - 」と題して募集する。

次に、開催日程については、10月26日から11月4日までで、会場は例年同様、新勝寺の第二講堂を予定している。

応募に関して、市内は、広報や小中学校・絵画教室を通じた一般公募で行いたいと考えている。また、海外については、各国大使館やこれまで出品のあった都市や学校などに依頼をしている。次に作品の取り扱いであるが、入賞作品については、返却せず複製をお返しすることとし、実際の作品は昨年同様に友好・姉妹都市において公共施設等で展示していただくよう、引き続き依頼していく考えである。

なお、表彰式を11月3日(日)に予定している。

《報告第1号に対する主な質疑》

委員：今年のテーマは「夢」ということで、昨年の「祭り」と比べるとかなり抽象的なものとなった。子どもたちは想像力が豊かであるので、いろいろと描くことができると思うが、どんなイメージになるのか。

秋山生涯学習課長：実行委員会においてもテーマを決めることに時間を一番費やしたところである。他の候補としては「家族」があり、今の時代であればこそ家族の絆も大事なもののなので、テーマにいいのではという意見もあった。逆に、「夢」を描くのは難しいという意見もあった。その中で、海外の子どもたちが「夢」に対して、どのような考えを持つのか、どんなことを考えるのかを理解することもいいのではということ、「夢」に決定した。昨日見た夢なのか、将来の夢なのかどういったイメージを持つのか難しい面はあると思うが、そこは子どもたちの豊かな発想に期待をしたいと思う。

委員：全小中学校に参加していただければいいのだが、何校かは不参加となっている。国際交流は成田市の中心的な部分である。テーマは「夢」ということで、簡単でもあり、難しくもあるが、書きやすいと思う。私が行った小学校の卒業式では、一人ずつ将来

の夢を語っていた。是非、市内全ての小中学校から出品されることを期待するとともに、その点についての働きかけもお願いしたいと思う。

報告第2号 平成26年度全国高等学校総合体育大会成田市実行委員会「設立総会」及び「第1回総会」について

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

最初に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の概要について説明する。

その歴史と現状としては、昭和38年度の新潟大会を第1回とし、高等学校教育の一環として、高校生の健全育成、競技力の向上等を目的に学校対抗で開催されており、規模、内容において、高校生最大のスポーツの祭典として、夏季大会、冬季大会が開催されている。

また千葉県においては、平成17年に「2005千葉きらめき総体」として開催された。夏季大会においては、これまで1県単独開催であったが、平成22年度沖縄県開催をもって47都道府県を1巡終了し、平成23年度以降は都道府県単独開催ではなく、ブロック開催となった。平成22年12月に全国高体連理事会で、平成26年度大会においては、南関東4都県での開催決定となった。

千葉県では8競技が開催され、そのうち成田市では、柔道、少林寺拳法の2競技が中台運動公園体育館で開催される。なお、少林寺拳法は、これまでも全国大会は開催されているが、インターハイ種目としては、平成26年度からの採用となる。

成田開催競技の参加者等は、柔道が男女の団体戦、個人戦に選手・監督等、役員・補助員を含め2,000名規模、少林寺拳法が、男女の単独・組・団体の演武に選手・監督等、役員・補助員を含め1,000名規模での開催となる。

3ページは、4都県における各競技の会場と会期の一覧となる。

総合開会式は、東京都調布市の味の素スタジアムで8月1日に実施され、柔道競技は8月2日から6日の5日間、少林寺拳法は8月8日から10日の3日間の会期で開催される。

この大会の愛称は「煌めく青春 南関東総体2014」・スローガンは、「君の汗 輝く一滴 勝利の雫」、「シンボルマーク」・「総合ポスター図案」は、資料のとおりとなっている。

これまでの開催準備経過についてであるが、平成22年12月3日、平成26年度における南関東ブロック4都県での開催が正式決定されている。平成23年1月24日に県から柔道、少林寺拳法の受け入れの打診があり、3月9日に開催承諾書を提出しています。同年9月2日、千葉県準備委員会第1回総会が開催され、平成24年6月6日には、千葉県実行委員会の「設立会」を経て「第1回総会」が開催され、会場予定地として成田市からは、教育長が委員に就任している。

その後、県実行委員会、高体連専門部と連携しながら、種目別運営費の試算や、競技役員等

の編成など、準備業務を推進してきた。

また、本年4月からは、本格化する準備業務に対応するため、会場地担当職員として、市原緑高校教諭で県高体連柔道専門部副委員長、成田北高校教諭で少林寺拳法専門部委員長が、週3日生涯スポーツ課で従事いただいている。

また、平成25年4月19日に開催された全国高校総体中央委員会において、成田市会場を含む、各競技会場及び会期が正式に決定したことを受け、5月16日に、成田市役所において、県競技団体、学校関係、市内関係機関、団体の出席のもと、成田市実行委員会を「設立総会」を経て「第1回総会」を開催した。「設立総会」、「実行委員会」では、高校総体の概要を報告した後に、実行委員会設立趣旨、平成25年度事業計画、収支予算、開催基本方針等が、承認された。

実行委員会委員については、関係団体から33名で構成し、役職については、7ページのとおり、小泉市長を会長とした記載のと通りの役員構成となっている。

顧問には、会長に成田市選出の千葉県議会議員のお二人、参与には成田市議会議員の皆様、秋山委員長をはじめ、教育委員の皆様にご依頼することとさせていただくことになった。

《報告第2号に対する主な質疑》

委員：3,000名と多くの人が集まることになるが、宿泊の手配はどこでやることになるのか。

大矢生涯スポーツ課長：千葉県実行委員会が配宿センターを設置して業務を行う。

報告第3号 小中一貫教育の進捗状況について

【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

平成26年4月に下総地区に開校を予定している下総小学校と現下総中学校とで進める小中連携教育・一貫教育の進捗状況について報告する。

成田市における小中連携教育については、平成25年1月の本会議において、ご承認いただいた「成田市小中連携教育」サブタイトル（小中連携・一貫教育について）と題したものであるが、文言調整のご意見をいただき、これを訂正した上で、平成25年2月6日に開催された成田市小中学校校長会議において各校校長に配布し説明した。この校長会議では、特に、小中連携教育に期待する効果、成田市小中連携教育の方針、成田市が推進する小中一貫教育の考え方について説明した。これまでも、取組に程度の差はあるものの各中学校区ではそれぞれ小中連携教育を進めてきたが、一人一人の子どもの成長に一層目を向けた一貫性のある指導によ

る学力・体力の向上と生徒指導の充実など質的な向上を目指すことを目的として、成田市の小中連携教育の方針を明確にするとともに、周知徹底を図り、連携教育をより一層推進しようとするものである。

平成26年4月に開校する下総小学校と現在の下総中学校は、下総中学校敷地内に小中学校施設一体型の校舎建築も順調に進められている。開校まで1年を切り、下総中学校の高山校長からの要望もあり、成田市小中連携教育の方針に基づき小中一貫教育に必要な教育内容の検討・準備も必要となっていること、さらには年度末の人事異動により新たに転任してきた職員にも成田市が進める小中連携教育・一貫教育について説明する必要があることから、5月16日午後3時30分より下総中学校を会場に下総地区4小学校と下総中学校の全教員を対象に説明会を行ったところである。この説明会では、冒頭に会場校の下総中学校高山校長から、「児童生徒の学びの充実を一層進めるための小中連携教育について」、熱い思いを込めた挨拶があり、続いて、関川教育長より、成田市が進める小中連携教育・小中一貫教育についての考え方等の説明を行った。続いて、開校に向けた準備について担当課より説明を行い、その後、参加職員から、現時点での質問・意見を受けた。質問・意見の中には、①下総小学校に熱い思いを寄せる意見、②統合を機会に教育環境をより充実しようとする意見、また、③小中一貫の教育計画を策定する考え方など、多岐にわたっていたが、こうした質問・意見に対して、学校運営上の方針・計画の決定権限は平成26年度の校長が責任をもって行うものであり、現在進めている学校運営上の方針や諸計画は平成26年度に向けての準備であることを確認した。また、別途教育委員会の諸事業については教育委員会としての考え方を説明してきた。

次に、地区小学校保護者への説明については、すでにご報告のとおり、昨年4月に4小学校それぞれの学校で保護者説明会を開催して統合小学校の在り方についての説明を行い、併せて、統合後の連携教育を進めた一貫教育の在り方についても考え方を説明している。

また、統合後の一貫教育を推進する学校運営上の基本の方針については、下総地区小中連携推進委員会を組織していただき、教育委員会がこの推進委員会に諮問する形で様々なご議論をしていただいている。これまでに推進委員会を延べ10回、推進委員会の下部組織である5つの作業部会では、それぞれ3回～10回程度開催していただき、基本的な生活習慣の確立や学習習慣の定着の在り方、スクールバスの運行、学用品、体操服、日課時程、PTA組織の考え方などを答申していただいている。

今後は、教育内容の検討については、引き続き推進委員会及び作業部会においてご議論いただくとともに、開校に向けた準備を事務局としても積極的に支援していく予定である。

なお、現在地区小学校に在籍する児童を対象に、統合小学校についての説明会を開催する計画でいる。地区小学校の校長からは、統合小学校に大きな不安を持っている児童は確認していないとの報告を受けているが、統合が近づいてくる今後は、児童それぞれ期待と不安が入り混じる時期にもなることから、児童一人一人の思いを大切に、統合小学校への不安を少しでも解消していきたいと考えている。各小学校長と十分に協議した上で、適切な時期に実施してい

きたい。

《報告第3号に対する主な質疑》

委員：区分中期における7年生は、中学1年生になるが、転校する場合、転校してきた場合はどうなるかについて、父兄からよく聞かれる。この7年生については、今後十分に説明する必要があると思う。

柳鶴学務課長：どのような点が疑問であるのか、不安であるのか、保護者の思いを聴く場を設けていく必要があると考えている。

4. 委員長閉会宣言